

助け合い支え合う地域のつながりこそ真の防災力

熊本地震は、最大震度7が2回、震度6の地震が5回、余震の累計は4,000回超の観測史上初の大災害となり、本市だけで死者90人、避難者数が最大11万人、住家被害が13万件にも及ぶ甚大な被害に見舞われました。

また、熊本のシンボルである熊本城の被害をはじめ、市民病院の機能停止、避難所における混乱、デマ情報の錯綜など、想定外の事態が次から次へと発生し、行政による公助の限界が露わになった災害でした。

このような状況下において、地域における共助や自助が大きな力を発揮し、助け合い支え合う地域のつながりこそが真の防災力であることを、わたしたちは実感しました。

本市では、この熊本地震の最大の教訓を胸に、これまで地域や関係団体と連携した取組を力強く推進して、様々な面から防災力をアップデートしてきました。

今後も全国的に大規模かつ広域的な災害の発生が想定される中、この10年の節目を契機として、安全・安心で災害に強くなやかなまちづくりを更に加速化させるとともに、他の自治体にも震災の教訓を伝承することで、九州をはじめ全国の自治体の災害対応力の向上をけん引してまいります。

熊本地震関連の主なご支援等

■寄附金等の受付状況:約446億円(令和8年(2026年)1月31日時点)

■ボランティア、自治体・民間事業者等からの人的支援

・熊本市災害ボランティアセンター 延べ活動人数 約37,900人(平成28年(2016年)11月まで)

・自治体・民間事業者等からの人的支援 延べ派遣受入人数 125,333人(令和7年(2025年)3月末時点)

この他、全国各地より、多数の支援物資をいただくなど、国内外の多くの皆様からご支援・ご協力を賜り、本市の復旧・復興の大きな力となりました。心より御礼申し上げます。

—熊本地震10年の取組—

「支えられた日々を、支え合う力に。」

熊本地震から10年の節目に、犠牲となられた方々への追悼と、復旧・復興の歩みの振り返り、そして支えてくださった全ての方々への感謝の想いを込め、以下の基本方針に基づき取組を進めます。

基本方針

犠牲になられた方々への追悼と想いの継承

犠牲となられた方々に追悼の意を表すことに加え、災害の記憶の風化を 방지、熊本県全体で防災への思いを新たにすため、県と県内市町村との共催により、合同追悼式を開催します。

復旧・復興の歩みの振り返り

熊本市現代美術館や動植物園、熊本競輪場において、熊本地震の当時や復旧・復興の歩みを振り返る企画・イベント等を開催します。

未来への教訓等の伝承

九州市長会防災部会等と連携した訓練やTKB48避難所訓練などを実施します。各区において、防災イベント等を実施し、地域防災力の向上を図ります。

支援への感謝と恩返し

復興コンサートの開催や熊本城及びその周辺地域による年間を通じたイベントを開催し、様々なご支援への感謝を伝えるとともに、防災意識の醸成を図ります。



各事業の詳細は
熊本市公式HPを
ご覧ください

熊本地震から10年 支えられた日々を、 支え合う力に。



熊本市
令和8年(2026年)4月

■平成31年／令和元年(2019年)

10月6-13日 ラグビーワールドカップ2019の熊本市開催

11月30日~12月15日 2019女子ハンドボール世界選手権大会の熊本市開催

両大会を通じて世界中から多くの来訪者を迎え、観光客数と観光消費額が過去最高を記録するなど、熊本地震からの復旧・復興の歩みを国内外にアピールする貴重な機会となりました。

11月 1日 熊本市初となる建設型応急住宅の撤去開始

11月22日 全ての災害公営住宅が完成(8団地・326戸)

12月 1日 熊本城ホールグランドオープン

経済成長をけん引するプロジェクトとして桜町・花畑周辺地区の再整備を推進し、備蓄倉庫の機能も備えた熊本城ホールなど全施設が開業しました。



■令和2年(2020年)

2月 29日 学校施設の災害復旧工事が完了

3月 17日 下水道管渠の災害復旧工事が完了

4月 「まちなか再生プロジェクト」が始動

老朽化した建築物の建て替えを促進し、中心市街地の防災力の向上、賑わいの創出を図る制度がスタートしました。

6月 1日 熊本城特別見学通路公開開始

熊本城の被害状況や今しか見られない復旧過程を安全に観覧いただけるようになりました。

7月~ 令和2年7月豪雨の被災地へ支援を実施



■令和3年(2021年)

3月20日 白川口駅前広場の整備完了

6月28日 熊本城天守閣内部公開開始

天守閣の復旧に伴い展示をリニューアルし、模型やプロジェクションマッピング等の映像を活用した展示をご覧いただけるようになりました。

11月13日 花畑広場が完成

市民の日常の利便性及び観光客の回遊性の向上に加え、災害時の広場機能の確保など、災害に強い中心市街地の整備を行いました。

12月19日 応急仮設住宅等入居世帯数が0世帯に

被災者一人ひとりの状況に応じた支援を進め、応急仮設住宅等入居世帯数は0世帯となりました。



■令和4年(2022年)

1月 宅地耐震化推進事業(拡充)(全156地区)が完了

3月~ 第38回全国都市緑化くまもとフェアの開催

4月23-24日 第4回アジア・太平洋水サミットの開催

花畑広場や熊本城ホールで開催し、森の都、水の都である熊本市の魅力をPRしました。

10月 1日 熊本市防災基本条例の施行

熊本地震の教訓や課題を踏まえ、地域防災力の向上に係る取組を推進するため、「熊本市防災基本条例」を制定し、毎年4月16日を「熊本地震の日」と決めました。



■令和5年(2023年)

3月 「熊本城復旧基本計画」を改定し、復旧完了までの計画期間を令和34年度(2052年度)に再設定。

4月16日 「熊本地震の日」周知啓発イベントの初開催

「市長と若者たちとのトークセッション」や「震災復興パネル展」、遊びを通じて防災を学ぶ「防災ヒーロー入団試験」などを行い、約3,000人がご来場されました。

9月 1日 洋学校教師館(ジェーンズ邸)の復旧・公開再開



■令和6年(2024年)

1月~ 令和6年能登半島地震の被災地へ支援を実施

3月 校区防災連絡会の設置完了(100%)

3月 くまもとアプリの導入・活用

平時には、地域活動やボランティア活動の参加率を高めるツールとして活用し、災害時には、避難所運営や避難状況把握等にも活用できる、スマートフォンアプリ「くまもとアプリ」を導入しました。

8月 「熊本市新庁舎整備に関する基本構想」を策定

あらゆる災害から市民の皆様の生命・財産を守る拠点としての新庁舎整備を進めます。



■令和7年(2025年)

1月 九州市長会において、ONE KYUSHU プロジェクトチームを設置

南海トラフ地震や大規模災害を想定した、九州全体での防災・減災対策、相互支援体制の構築等について検討を開始しました。

2月 近見地区の宅地液状化防止事業工事が完了

8月 令和7年8月豪雨対応

災害救助実施市として、災害救助法の適用を決定し、スピード感をもって対応にあたりました。

10月19日 熊本西環状道路(池上工区)の開通

本区間が開通したことで、更なる道路の多重性が確保され、災害に強い道路ネットワークが形成されました。



■令和8年(2026年)

1月27日 熊本競輪場グランドオープン

熊本地震で大きな被害を受けた熊本競輪場は、全ての再建工事が完了し、1月27日にグランドオープンしました。

新たに整備した場内の駐車場は、大規模災害発生時には車中泊避難場所として活用することができるほか、敷地内のサービスセンターには防災備蓄倉庫を設け、地域の防災拠点としても活用します。



被災者支援

福祉支援の充実と地域コミュニティの活性化

- 被災者支援のための専任組織として設置していた「地域支え合いセンター」による支援から、令和4年度以降は既存組織の枠組みの中での支援へと移行し、被災者からの相談に対応できる体制を継続しています。
- 新たな生活環境において、孤立することなく、健やかに生活を続けられるよう、生活困窮世帯の相談支援の強化による福祉的な支援、地域での交流会等の開催などによる地域コミュニティの活性化等に継続的に取り組んでいます。



こどもたちへの心のケア

- 定期的なカウンセリングが必要な児童生徒数調査の中に熊本地震の影響による児童生徒数も含んでおり、引き続き、児童・生徒の心のケアを実施していきます。

防災・減災のまちづくり

地域防災力の更なる向上

- 市民や地域の皆様、施設管理者、防災関係機関、民間企業等と連携し、全市的な訓練を毎年実施しています。年度毎にフェーズを変えた訓練に計画的に取り組むことで、災害対応力の向上を図ります。
- 校区防災連絡会・避難所運営委員会など、地域と連携した取組や、地域の防災リーダー等の人材育成に取り組めます。



避難環境の整備

- プライバシーの確保や寝床の改善の取組として、パーティションや簡易ベッドの備蓄を加速度的に整備するとともに、キッチンカー等の活用を進め、全市的な震災対処訓練の実施時など、災害時のみならず、平時の利活用を行うことで地域住民への周知広報を図ります。



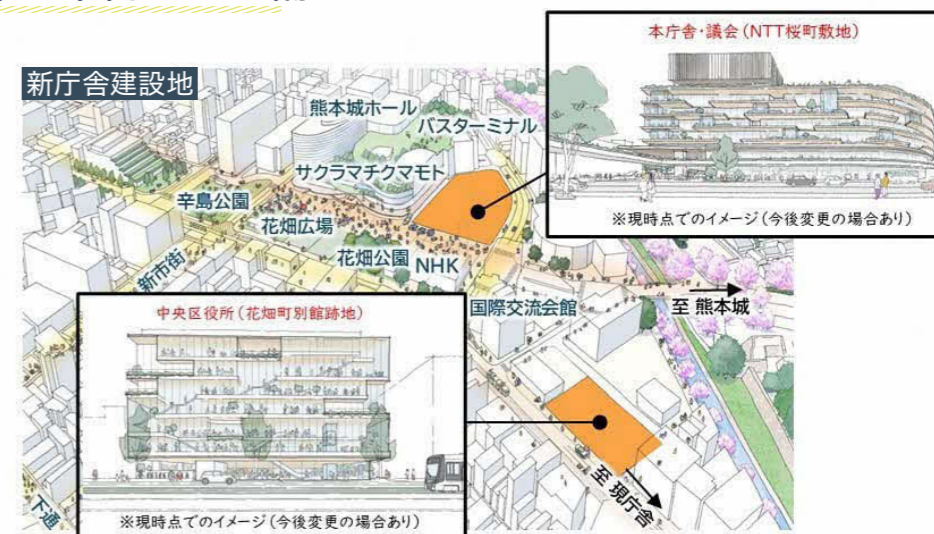
インフラ整備

- 大規模地震発生時においても上下水道の基本的なサービスを安定的に提供できるよう、施設や管路の耐震化を進めます。
- 上下水道管路や約3,000橋の橋梁の老朽化が進んでおり、計画的な老朽化対策を実施していきます。



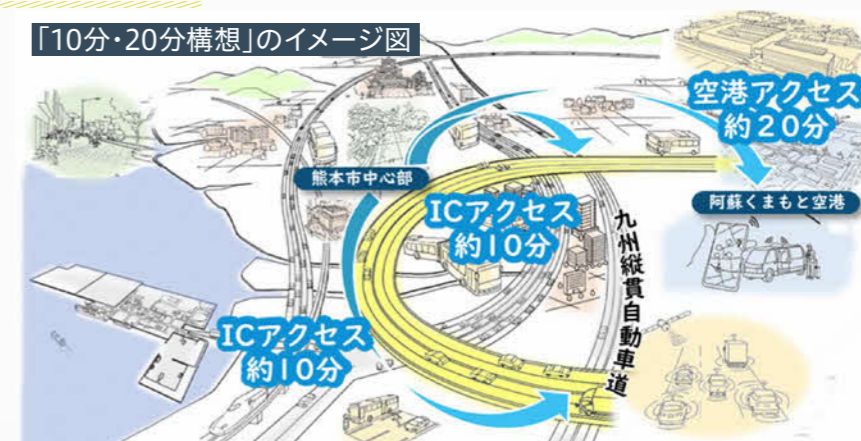
災害に強く賑わいのある中心市街地の整備

- あらゆる災害から市民の皆様の生命・財産を守ることに加え、市民サービスの更なる向上を図るため、本庁舎等の建て替えを進めます。
- 老朽化した建築物の建て替えを促進し、中心市街地の防災力を向上させるとともに、現庁舎跡地活用や周辺のまちづくりを通じ、中心市街地全体の賑わい、地域・経済交流などに資するまちづくりを進めます。



災害時に機能する高規格道路の整備

- 「熊本西環状道路」や「10分・20分構想」などの高規格道路は、災害時において、ダブルネットワークの機能を果たすことから、救助・救援活動の円滑化や迅速な復旧が期待されます。花園工区、池上工区が開通した「熊本西環状道路」の更なるダブルネットワーク機能構築のため、砂原工区の開通に向け取り組むとともに、「10分・20分構想」の早期実現に向けて取組を進めます。



熊本地震の記録、記憶及び教訓の伝承

防災意識の向上に向けた取組の推進

- 市民の皆様の防災意識の向上につながることを目的とした防災啓発イベントの実施や区における地域と連携した取組、防災教育などに引き続き取り組みます。

他都市への支援・協力体制の構築

- 国や県、他都市、他の関係機関等と連携を強化し、効果的で効率的な災害対応体制の構築に取り組みます。
- 今後も熊本地震の教訓をいかして、他の被災自治体を支援していきます。また、支援することで熊本市職員の災害対応力の向上を図ります。
- 南海トラフ地震をはじめ、今後起こり得る大規模災害に備えるため、県内のみならず、九州・全国での防災・減災対策や相互支援体制の構築等に取り組めます。

